

卒業生 この指とまれ！ 第2回

今回の「この指とまれ」のインタビューに答えてくれたのは、令和2年度壱岐高校東アジア歴史・中国語コース（歴史学専攻）を卒業し、別府大学文化財学科で学び、大学卒業後鳥栖市教育委員会生涯学習課で文化財専門職員として働いている 平田 太輝 さんです。



出身地：壱岐市
所属
鳥栖市教育委員会
生涯学習課文化財係

—なぜ壱岐高校東アジア歴史・中国語コースに入ったのですか？

少 し興味があったので友達と一緒にオープンキャンパスに行っていたことがきっかけです。案内してくださった先生方の雰囲気も良かったので入学を決めました。

—壱岐高校での思い出を教えてください。

歴 史学専攻に所属していたので、専門的な歴史の授業が思いつくほどです。歴史をどのようにして研究しているのかを、実際にモノに触るなどして、現場の生の声を身近に学ぶことができました。特に、遺物(モノ)の観察方法は現在も大きく役立っています。また、皆で研究を行い大学の先生や一般の方の前で発表したり、近畿や九州各地に巡検へ行ったりしたことも貴重な経験です。皆で計画からフィードバックまで行うことで、計画を立てて行動できるようになりました。



研究会での発表会の様子

—大学ではどんなことを勉強・活動していましたか？

大 学では考古学に関して専門的に学びました。普段の授業では、考古学をはじめとする歴史的な研究に関する考え方や、土器の実測なども学びました。また、フィールドワークや発掘調査、研究会にも積極的に参加しました。特に、発掘調査は大学で行われているものだけではなく、九州各地や近畿の自治体にも積極的に参加しました。



フィールドワークの様子

—鳥栖市に就職したのはなぜですか？

文 化財専門職員としての採用があったことと、私が研究している弥生土器の情報が豊富な地域であるというのが決め手です。仕事をしていると時には壁に当たることもありますが、高校・大学で学んできた知識や経験が現在の仕事にも大きく活かしています。発掘調査はもちろん、近年は遺跡の「活用」が重要です。さまざまな博物館や遺跡を見学しに行った経験が新たなアイデアに繋がります。また、これまで出会ってきた方々と専門的な質問や悩みを気軽に共有できる点は強みです。